

学会で在宅看取り事例をポスター発表しました

日本緩和医療学会 第7回中国・四国支部学術集会

発表事例

「がん終末期の親を持つ子どもとその家族への訪問看護師の支援」

広島県看護協会訪問看護ステーション「ひろしま」

(筆頭演者) 寺本 康子

(共同演者) 高瀬 真由美・児玉 恭子・木村 奈緒美・遠藤 泰子

訪問看護で経験する終末期看護、在宅看取りでは、
本人の支援はもちろんのこと、特に在宅においては
「家族」への関わりも大変重要となってきます

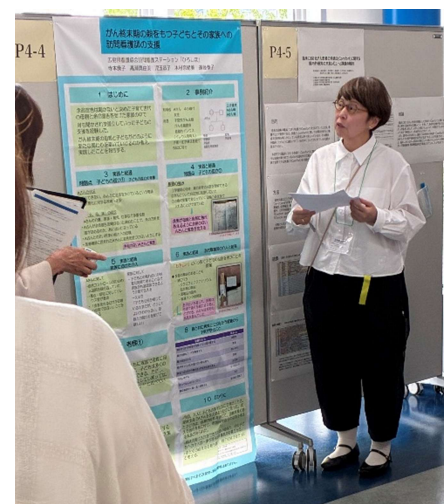
40代の方の在宅看取りにおいて
学童期の子どもさんへの支援を行いました

病状が悪化していく中で
子どもさんにとっては近寄りがなくなった母親
母親としては親としての役割を果たせないという悲嘆

母親との距離を縮め
残された大切な時間を一緒に過ごしてほしい、という思いで
看護師は子供さんと一緒に母親のケアを行いました
子どもさんは自分の役割を見つけ
母親とのかかわりの中で成長していくことができました

大切な家族との別れは辛く、受け入れがたいことでも、
住み慣れた家で家族と共に過ごすこと
それは、家族皆にとって
大切な宝物のような経験になるのではないのでしょうか

私たち訪問看護師は
その大切な時間を支えることができるよう
日々「看護」を続けていきます



令和7年9月6日

徳島大学 大塚講堂・長井記念ホールにて

親と共に病気に立ち向かう経験から子供が学ぶこと

経験すること	学ぶこと
親がぎりぎりの状態で頑張っている姿に接する	柔軟性
親の特別なニーズを尊重する	寛容
親の世話をする	思いやり
親がゆっくりとしか動けない時は待つ	忍耐
病気に立ち向かう親のありのままの姿を見る	自己愛
手伝いをする	チームワーク
自分でなんとかやっていく	自立
親の病状の一進一退に対処する	粘り強さ/回復力